

住職のひとりごと

* 新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。ワクチン接種も進み今頃は終焉の兆しが見えている頃かと思っておりました。改めて自分も含め、一人ひとりの自覚と責任ある行動が求められます。緊張感を保ちつつ、むやみに怯えることなく、心はいつも明るくありたいと思います。
 * 8月16日の「川施餓鬼」子どもたちを集めてのイベントは無しとし、「施餓鬼法要」を行いました。

た。お寺で行う法要としては、大掛かりなもので、今年も泰潤の特訓を受け臨みました。* 法要後のかつてのメイン行事、「タイマツ」は、伝統の灯をどうしても続けたく、数は20基(全盛期は120基)としましたが前の週に「どんぐりの会」のメンバーに竹を伐つてもらい、当日の午後に製作を始めるべくスタッフに伝えました。ところが・・・

でしたが14時にスタッフさんが集まってくれました。嬉しいことに「本言にこんな日にやるんですか?」などと誰も言わず、屋根の下で楽しんでにタイマツ作りを始めたのです。16時半法要開始、雨、17時半、法話を始めた時点で雨・・・そして法話の終わった18時・・・

お彼岸のお経廻りの予定

- 9月3日 稲子～芝川・大久保
 - 4日(土) 万野原新田・大岩・小泉
 - 5日(日) 富士市 6日 精進川～下条
 - 7日 下条、青木
 - 8～9日 青木～馬見塚～外神・宮原・～富士見ヶ丘
 - 10日 大中里・泉町・穂波町・淀師・中島町・淀川町・貴船町・
 - 11日(土) 三島(富士) 清水・静岡 柚野 他希望者
 - 12日(日) 富士、由比、内房、大久保、 柚野 他希望者
 - 13日 北山・上井出・山宮・栗倉・舟久保町・村山 14日 宮町・西町・大宮・豊町・野中・星山・田中町・源道寺～ 柚野 15日～ 柚野
- * 日付が変わることがあります。
 変更等希望する方、ご連絡ください。



何と、雨が上がっていたのです。予定通り、今年も伝統の灯をつなぐことができました。私の記憶の中で雨でタイマツが中止になったことは一度もなく、今回もし降っていたら泰潤と二人で傘をさして川までお経を唱えながら歩こうと思っていました、それ

タイゼン・ケイタイ ; 090-2180-8591

ただに今まで一番嬉しい「たいまつ」になりました。
 * 今後の行事につきましてその時々状況をお聞きながら判断してゆきますが、『彼岸の法要』は予定通り、(卒塔婆のお申込みはお早目にお願致します) 『お会式』も一部内容を変更して行います。お檀家さんには「案内状」にて改めてお知らせいたします。
 * 11月に実施を予定しておりました「バス旅行」は今回も中止とします。楽しみにしていた方には申し訳ございませんが、皆で大きな声で笑える日を待ちましよう。* もつじき「彼岸花」の季節です。昨年も世話人の佐野和正さんが、たくさんの球根を集めてくれ市川建男(たつお)さんが植えてくれました。「全部で何本あるんですか?」と聞かれると「控えめに一万本、もしかすると三万本」と答えます。本当の数は分かりませんが増えていることは間違いありません。どうぞお出かけください。
 * 今回のイラストは下条の芦澤優美さんでした。【泰然日記】

興徳寺便り

第133号
 (復刊第58号)
 令和3秋彼岸

あかい あかい 曼珠沙華

曼珠沙華 金子みすゞ
 村のまつりは夏のころ、ひるまも花火をたきました。
 秋のまつりはとなり村、日傘のつづく裏みちに、地面のしたに棲むひとが、線香花火をたきました。
 あかい 曼珠沙華
 あかい

金子みすゞ(本名テル) 明治36年、山口県長門市に生まれ。20歳の頃から詩を書き始め 4つの雑誌に投稿した作品が、そのすべてに掲載されるという鮮烈なデビューを飾るなどめざましい活躍をみせましたが、その生涯は決して明るいものではありませんでした。23歳で結婚したものの、文学に理解のない夫から詩作を禁じられてしまい、さらには病気、離婚と苦しみが続きました。ついには、前夫から最愛の娘を奪われないために自死の道を選び、26歳という若さでこの世を去ってしまいました。こうして彼女の残した作品は散逸し、いつしか幻の童謡詩人と語り継がれるばかりとなってしまうのです。それから50余年。長い年月埋もれていたみすゞの作品は、児童文学者の矢崎節夫氏(現金子みすゞ記念館館長)の執念ともいえる熱意により再び世に送り出され、今では小学校「国語」全社の教科書に掲載されるようになりました。
 (金子みすゞ記念館HPより一部抜粋)



毎年、秋のお彼岸の頃、決まって花を咲かせる彼岸花の別名「曼珠沙華」はサンスクリット語のマンジュシヤカが転じたもので、もともとの意味は「赤い」だそうです

回りの弟子たちに天から曼珠沙華や曼珠沙華の花が雨のように降り注いだ・・・(「施餓鬼法要」の中の「散華」、導師・式衆が紙で作られた花びらを散らす場面はここからきています。)

妙法蓮華経(略して法華経)は全部で28章で構成されておられますがその序章、「序品第一」にこんな一節があります。――この時、天は曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・曼珠沙華・摩訶曼珠沙華を雨ふらして、仏及びもろもろの大衆に散す――深い瞑想に入られたお釈迦様や

雨が大地を濡らすが如く野に拡がる彼岸花は天からの贈り物のように見えます。また、金子みすゞさんはこの花を見て亡くなった方の霊が地下から線香花火をたいている、と譬えました。上下をひっくり返して見ているところがユニークですね。

『彼岸』とはずっと向こうの岸の彼方、仏さまの世界のことです。人は誰もが彼岸に渡ることができる(「仏に成れる」と法華経に説かれています。その方法を学び、思いをめぐらし実践する1週間が『お彼岸』です。
 あかいあかい曼珠沙華は天からの仏さまと、地からの精霊からのメッセージ、そんな風を受けてめながら秋の彼岸を過ごしてみましよう。



散華



お盆の施餓鬼法要の灯 今年も芝川に届く

昨年と同じく、本堂にて『施餓鬼法要』を執り行い、引き続き伝統行事「タイマツ」に点火、コロナ禍で20基と規模は縮小しましたが無事芝川まで運ぶことができました。



御宝前の灯をいただいて
タイマツに点火する。



みずかさ
長雨で水嵩の増した「芝川」で焚き上げる



みち
雨あがりの途をゆく、タイマツ行列

【写真提供 高瀬幹雄】

暮れまでの予定

9月23日(木) ^{ひがんえ}彼岸会 10:00~ 法要. 10:40~法話

恒例の秋のお彼岸の法要です。新型コロナウイルス対策として参詣者にはマスクの着用をお願いいたします。入り口でのアルコール消毒、座席を離す、換気の徹底等できる限りの対策は施します。お経のいっばいあがった卒塔婆をお墓に建てましょう。(当日参詣できない方は、式後本堂から自由にお持ち帰りください。本堂は日中は開いております) お塔婆のお申し込みはお早めに(2千円です)。

9月26日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうどいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)

10月24日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうどいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)

11月14日(日) ^{えしき}お会式 10:00~ 法要~法話

「お会式」は予定通り執り行います。ただし、具体的な内容は1ヶ月前に決定し、お檀家さんには「案内状」にて連絡いたします。法話は 埼玉県川越市本應寺の星光照上人です。2年前の団参で法話を聴聞させていただき、参加者全員で感激しその場でお願いをいたしました。ご期待下さい。

11月28日(日) 15:00~写経 16:00 ^{しょうどいぎょう}「唱題行」(毎月第4日曜日)



興徳寺 御首題帳 彼岸花バージョン。
鈴木ゆかりさんの消しゴムスタンプです。



「御首題帳」 興徳寺にあります。

7月18日(日)は今年2回目の『興徳寺をきれいにする日』、でした。
毎年1回は雨で中止になるのですが、今年は2回とも晴天に恵まれ、暑い中で草刈り、草取り、本堂の掃除などに汗を流していただきました。ありがとうございました。

